

世界はショックドクトリン状況

——“未知の感染症への不安と恐怖の中、安倍政権は緊急事態宣言の権力を握り、国民はマスク不足の中トイレットペーパーや米まで買いだめる”ショック状況——

新型コロナウイルス感染症が認識されてから世界中でショック状況が発生し、その状況下での人々の反応・政権の対応が明らかになりつつあります。

ナオミクラインが著した「ショックドクトリン」のように経験したことのないショック状況が発生すると人々は“思考停止”しとんでもないことが何のためらいもなく行われたり導入されたりしてしまう。

中国武漢では街が封鎖され、住民は感情的に感染者をその家から出られないようにドアに釘を打って封じてしまう景色が・・・マスクを奪い合う住民同士の姿が・・・又、欧州ではスーパーマーケットでトイレットペーパーを奪い合う様子が放映されていました。欧米の人々のアジア人への白い目・非難の声。日本の国内でも車内でくしゃみをした人に対して「隣の車両に行け」と怒鳴りつける人が出てきたり、「公園で子どもが遊んでいる、家の中に入っている」と言いまわる大人。マスクもない消毒用アルコールもないといった状況下でトイレペーパーがなくなるというデマだと分かってもスーパーで買いだめる状況が出現。コロナウイルスへの不安から、自己防衛の感情から、善意から無自覚的に排外主義・差別主義が蔓延してきています。



NPOの牧師奥田さんは言います「未知の病の蔓延は私たちに恐怖を植え付けた。私たちは分断され恐怖は憎悪を生み殺し合いへ発展する。さすが現状ではそんなことは起こっていないがトイレットペーパーが消えた一件はある意味“それはすでに始まっている”と私には思えた。」「みんなが“自分だけ”の状態に陥っている。・・・私たちの中から”他者“がいなくなった」「無くなったのはトイレットペーパーではありません。私達は自分の中にいたはずの他者をなくしたのです」と。

では安倍政治はどうだっただろうか？コロナウイルス感染症への対応が後手後手で市民の中から不満が出てきている中、突然「イベントの自粛要請」(2/26)「小中高校・特別支援学校全国一律休校要請」(2/27)を専門家会議との相談もなく客観的科学的根拠を示せずに出したのです。国民は各労働団体を始めもくもくと要請に応ずる行動へ(一部の自治体の首長は実態を知らずに一律はおかしいと休校をしませんでした)。社会もなんとなく不満がありつつも同調圧力を・・・

そして“緊急事態宣言”を安倍首相が単独で宣言できる「新型インフルエンザ等対策特措法改正法案」をほんの数日間で成立されてしまいました(3/13)。“国会の承認”すら規定せず、まるであせって制定しなければとの制定。

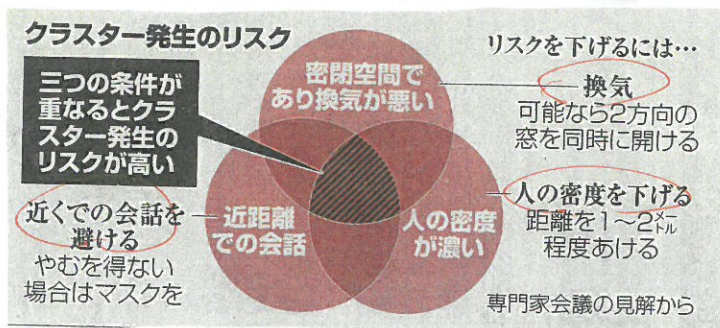
北海道知事は2/28に緊急事態宣言を根拠事項を示すこともなく、法的根拠もなく宣言し。大阪府知事は厚労省の出した4/3には3374人の感染者が発生するかもと

いう科学的根拠も示さぬ推計を示して大阪と兵庫との間の移動をしないよう自粛要請。鎌ヶ谷市議会はコロナ感染症対策についての質問項目も入っていた一般質問を一日も遣らずに中止してしまい議会の役割を放棄。“議会として一般質問をしていると市職員が新型コロナ感染症対策に全力を傾注できないから”という理由なのでそのように諮問した議長が検討したことを示す情報を公開請求したらそのような文書等はないとのこと。検討もしないで思いつきで実施したのではあるまいに・・・かなりの思考停止です。

コロナ感染症対応といえはなんでも出来る状況が続いています。不安と恐怖の中で思考停止と同調圧力・・・政府・権力の強権的な行動にはほとんど従ってしまう風潮が。冷静な市民の心と行動が必要なのではと思われます。



朝日新聞より



政府は、専門家会議メンバー岡部さんが示している(朝日新聞 3/18)「退院している人が増えているのです」「重症になる人が出来るだけきちんとした医療を受けられるようにしておくことが大事」「新型コロナは8割ぐらい普通の風邪同様3~4日で治ります」「高齢者は季節性インフルでも長引いたりするから要注意」「高精度の検査とは別にスクリーニング的な検査は民間でもっと広く実施すべき」といった事柄についての現状を示すべき。

情報をもっと公開すると同時に、どう“区別された発熱外来診療~トリアージ~診療方法~軽症の方への療養・重症の状況への対応”をするのかを具体的に国民に示すべきです。一日も早く新型コロナウイルス感染症を克服できるよう冷静に行動をとっていきましょう。

「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫 047-445-9144

*活動報告HPに掲載:「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。